

トピックスⅢ

『循環しているワクチン由来ポリオウイルスに関連した急性弛緩性麻痺—フィリピン：MMWR 2001年10月12日から抄訳』

—IDWR 2001年第41週（10月8日～10月14日）：通巻第3巻第41号より—

2001年3月15日から7月26日の間に、循環しているワクチン由来のポリオウイルスによる急性弛緩性麻痺患者3例がフィリピンで報告された。1例目はミンダナオ島北部の8歳の小児で、3回の経口ポリオワクチン（OPV）接種を受けていた。麻痺の発症は3月15日であった。2例目はルソン島Laguna州の3歳の小児で、3回のOPV接種を受けていた。髄膜炎症状で7月23日に発症したが、麻痺は呈さなかった。3例目はLaguna州から北に45マイル離れたCavite州の14カ月の小児で、OPV接種を2回受けて

おり、麻痺の発症は7月26日であった。いずれの患者も出生以来、他の地域を旅行したことがない。患者3例から分離されたウイルスの遺伝子解析の結果、このウイルスはSabinワクチン株1型由来のポリオウイルスで、元のSabinワクチン株1型に比べ3%の遺伝子変異が認められた。3件の分離株は同一ではなかったが、非常に類似していた（塩基配列の相同性99%）。フィリピンへの旅行者は、自国の予防接種計画に従い、適切なポリオワクチン接種を受けていることを確認すべきである。

このことを受けて、フィリピン保健省は世界保健機関（WHO）/同西太平洋事務局（WPRO）と協力して補完的予防接種活動、ポリオフリー維持予防接種キャンペーンを実施することとした。WHO/WPROからの派遣要請に基づき、国立感染症研究所 感染症情報センター、FETP-J（Field Epidemiology Training Program Japan）、厚生労働省横浜検疫所

からも2002年3月のポリオNID (National Immunization Day) にあたって、フィリピン保健省、世界保健機関 (WHO)/同西太平洋事務局 (WPRO) に協力して上記活動に従事することとなった。

ポリオ根絶に向けてワクチンを継続していく事の重要性が確認された。一方で、ポリオワクチンを服用した小児の親が麻痺を発症している例がわが国で

も稀ながら報告されている。欧米ではほとんどの国が生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンの定期接種に切り替わっていることから、わが国で開発された不活化ポリオワクチンの製造承認が一日も早くなされ、子ども達に使用することができる日が待たれる。